

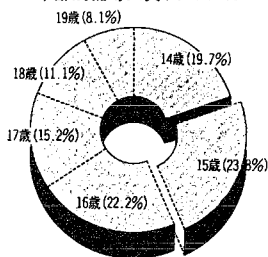
補導人員の推移(刑法犯少年)

年	補導人員
昭和58年	196,783人
.....	.....
平成元年	165,053
平成2年	154,168
平成3年	149,663
平成4年	133,882
平成5年	133,132

●補導人員の推移  
平成5年中に補導された子ども(交通事故による業務上過失致死傷を除く)刑法犯少年)は前年と比べて0.6%減の133,132人。この数は、大人を含めたすべての検

●年齢別にみた補導人員  
補導された子どもの数を年齢別で見ると、次に挙げるグラフのようになります。

年齢別補導人員(刑法犯少年)



四捨五入の関係で100%にはなりません。

### 非行の現状と傾向

●補導人員の44.7%に当たり、挙人員の44.7%に当たります。

## 家族の愛情が非行を防ぐ

### 子供の非行をキャッチしよう

昭和58年のピークを境に、全体的な数は減ってきていますが、依然、憂慮すべき状況にあります。人を死に至らしめる犯罪や、強盗・恐喝が増えるなど、非行の「質」が悪化しているからです。最近の補導状況や子どもの犯罪の現状を踏まえながら、非行を防止するにはどうすればよいか考えてみましょう。

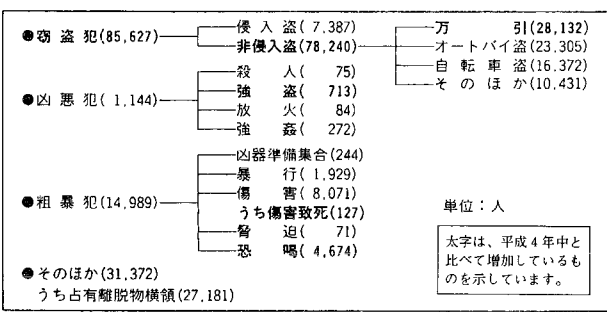
15歳が31,620人と最も多く、次いで16歳、14歳という順になっています。ただ最近では、補導された子どものうち、低年齢層の割合は減って、18歳、19歳といった高年齢層の割合が増える傾向にあります。

#### ●非行内容の変化

一口に非行といっても、その内容はさまざまです。子どもの起こした犯罪を罪種別にみてみましょう。大別すると、次の4つに分けることができます。

- 窃盗犯(侵入盗、万引き、オートバイ盗、自転車盗など)
- 凶悪犯(殺人、強盗、放火、強姦)
- 粗暴犯(凶器準備集合、暴行、傷害、脅迫、恐喝)
- その他(放置自転車を無断で使ったりする占有離脱物横領など)

以上の4つを、さらに細分化してみたものが次に挙げる表で、それぞれの数字(人)は、平成5年中のデータです。この中で特徴的なのが、全体的には減少傾向にあるのに、人を死に至らしめる犯罪のうち、



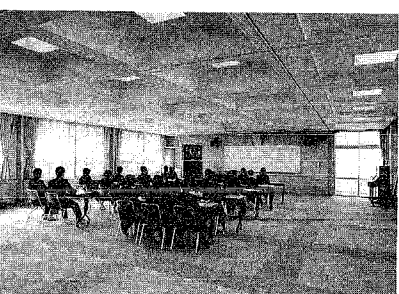
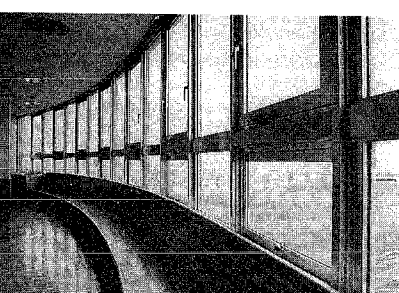
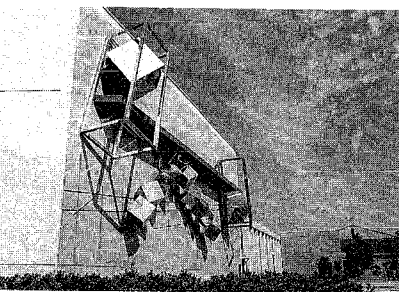
傷害致死が倍以上増えていることです。また、金銭や品物

### 非行の前兆と防止

一般に、非行には原因(背景)があるといわれます。それは、親への反発であったり、社会(学校)や家庭で自分の

- 言葉遣い(言葉が乱暴になったなど)
- 生活習慣(帰宅時間の遅れなど)
- 服装や持ち物(アクセサリーも含む)
- 交遊関係

一方、ふだんから子どもに社会のルールを教えることや、なんでも話しやすい雰囲気、家庭のなかにつくっておくことも大切です。家族の愛情が揺れ動く子どもの心を支え、非行を防止するものです。



月潟中学校が、社団法人の文教施設協会から平成6年度公立学校優良施設として、豊かな教育環境部門賞に選ばれ6月9日の高松市で開催された全国公立学校施設整備促進期成会定期総会の席上で表彰されました。この表彰は、当協会が、毎年、学校建築が完了した中から各県より推せんされた優良施設を選定、表彰し、季刊誌に紹介することで、近代的な学校づくりに役立てようとしているものです。表彰されたのは全国で65校、本県からは1校のみが選ばれました。受賞の豊かな教育環境部門賞は、ゆったりとした緑あふれる前庭のアプローチ、外壁のレリーフ、2〜3階の普通教室前面を利用した円弧型の談話コーナー、各教室の広さ、木材を多く取り入れ、あたたかみを感じさせていることなどから選ばれたようです。中学校では、輝やかしい受賞を契機に、地域に根ざしたゆとりとうるおいに満ちた教育環境づくりに積極的に取り組んでいます。